

⑫ 実用新案公報(Y2)

平4-36657

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成4年(1992)8月28日

A 44 B 19/36

2119-3B

(全5頁)

⑮ 考案の名称 スライドフアスナーの止部

⑯ 実 願 昭61-68060

⑰ 公 開 昭62-181208

⑱ 出 願 昭61(1986)5月6日

⑲ 昭62(1987)11月17日

⑳ 考 案 者 草 山 昌 洋 富山県黒部市堀切新362-22

㉑ 出 願 人 吉田工業株式会社 東京都千代田区神田和泉町1番地

㉒ 代 理 人 弁理士 宮田 友信 外1名

審 査 官 門 前 浩 一

1

2

㉓ 実用新案登録請求の範囲

フアスナーテープ1の側縁を折り曲げたテープ折曲部2にフアスナーエレメント4を設けている左右一対のフアスナーストリンガー7、7に、その両テープ折曲部2、2に跨つてスライダ8が挿通してあるスライドフアスナーで、その末端部でスライダ8を停止する止部であつて、前記テープ折曲部2にフアスナーエレメント4を含んで包着したブロック体15を、該ブロック体15の周囲に設けた薄肉ひれ片16と共にフアスナーテープ1に付着してあると共に、ブロック体15のスライダ当接面15a側のひれ片16aが、ブロック体15の底部を切り欠いて設けた空間部17内に収まる状態に突設していることを特徴とするスライドフアスナーの止部。

考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この考案は、スライドフアスナーのスライダを停止する上止部及び下止部を含み、合成樹脂材で成形して付着する止部に関する。

〔従来の技術〕

この種の止部は射出成形され、特に気密防水型のスライドフアスナーに多く適用されるものであつて、気密防水型スライドフアスナーは、そのフアスナーテープにゴム引きなどを施して防水性を保持し、閉鎖した際には啗合面を水漏れしないように密着されるものである。密着するためにスライダの摺動抵抗が普通のスライドフアスナーよ

りも大きくなり、強い力で引く必要があることから、スライダが止部に強く当たるものであり、従つてこれに対抗する強固な止部が必要となる。そこで一つの提案として、止部の下面周囲にひれ片を突設し、ひれ片と共にフアスナーテープに付着して、このひれ片自体の柔軟性により、スライダの衝撃力を緩和して取付け強度を増大することが試みられた。

〔考案が解決しようとする問題点〕

ところで、前述のひれ片を止部の周囲に突設した場合、スライダが止部に当接する際に、止部のスライダと対向する側に有するひれ片にスライダが引つ掛かるため、スライダと対向するひれ片を取り除き、その他の周囲にのみひれ片を設けて実験された。しかし止部を取付けるフアスナーテープがゴム引きであることから、多数の資料を繰返しスライダを止部に激突した結果、殆ど止部のスライダが当接する側より剝離する現象が生じた。

そこで、この考案は以上の実験から更に工夫を凝して開発したもので、フアスナーテープへの取付け強度が強固になり、しかもスライダの摺動に支障を来すことのないスライドフアスナーの止部を提供することにある。

〔問題点を解決するための手段〕

この考案による解決手段は、フアスナーテープのテープ折曲部にフアスナーエレメントを備えている左右一対のフアスナーストリンガーで形成さ

3

れているスライドフアスナーにおいて、その末端部に前記テープ折曲部にフアスナーエレメントを含んで包着したブロック体を、該ブロック体の周囲に突設した薄肉ひれ片と共にフアスナーテープに付着してあると共に、ブロック体のスライダ

〔実施例〕

第1図から第6図は気密防水型のスライドフアスナーの止部を示し、第7図から第9図は隠しスライドフアスナーの止部を示している。

気密防水型のスライドフアスナーは第1図と第2図に示す如く、防水性のあるフアスナーテープ1の側縁を折り曲げて立ち上げ、そのテープ折曲部2の中間に設けた凹溝部3内に、個々の務歯を列設するフアスナーエレメント4をその嚙合頭部5が突出するように抱持し、凹溝部3の外周にクランプ素子6を挟持してフアスナーストリンガー7を形成し、このフアスナーストリンガー7を左右に配し、対向する両テープ折曲部2、2に跨ってスライダー8が挿通してあり、またスライダー8を摺動して開放する方向の末端部に下止部Aを設け、反対側の末端部に上止部Bを設けたものである。

尚、前記スライダー8は、上片9の前端部中央に楔部10を垂設し、上片9の両側より垂下した外郭片11、11に互いに相対向する方向に突設したフランジ12、12を設け、内部に両テープ折曲部2、2をY字状に案内する導孔13を備えている。

そこで、まず下止部Aとなる止部から第1図と第3図乃至第5図によつて説明すると、下止部Aを取付けるべき末端部に存在するフアスナーエレメント4、4を複数個に亘つて嚙合し、嚙合したフアスナーエレメント列に相対向するフアスナーテープ1、1の裏面間に亘つて裏当片14を付着し、嚙合したフアスナーエレメント列の端部に、数個のフアスナーエレメント4を含む両テープ折曲部2、2に下止部Aとなるブロック体15を包着し、ブロック体15の下面周囲に薄肉のひれ片16を突設し、このブロック体15のひれ片16と共に両フアスナーテープ1、1及び延長する裏当片14上に付着してある。しかも上記ひれ片1

4

6のうち、ブロック体15のスライダー当接面15a側に突出するひれ片16aが、スライダー当接面15aの底部に切り欠いて形成してある空間部17内に収まる範囲内で突設したものである。空間部17内に収まる範囲内とは、第3図図示の如くに、ひれ片16aの先端がスライダー当接面15aよりやや内側にあり、外側へ突出しないように設けるものである。

第6図に示す例は、前記下止部Aとなる止部の一つの変形例であつて、前述の如く形成された空間部17をブロック体15の底部の全周面に設け、その空間部17内にひれ片16が収まる状態に突設したもので、これは外観上下止部Aを体裁良く取付けられる利点がある。

従つて、第3図図示の如くスライダー8をブロック体15に当接した際、スライダー8の後端面がブロック体15の空間部17より上部のスライダー当接面15aに突き当たるものであり、第4図図示の如くスライダー8のフランジ12が低い位置にあつても、ひれ片16aが空間部17内に収まるように設けてあるため、このひれ片16aにフランジ12が当たらない。また第5図図示の如く、ブロック体15に切り欠いた空間部17が設けてあつても、ブロック体15が両テープ折曲部2、2を抱持し、フアスナーテープ1、1とも一体的に連結していることから、強度を何んら低下することがない。

次に第2図に示す止部は上止部Bとなるものであり、前記下止部Aと共通する部材及び部分については同符号で説明する。上止部Bを取付ける部分にも両フアスナーテープ1、1間に亘つて裏当片14を付着するが、この場合対向する両フアスナーエレメント4、4間に間隔を保つて付着し、間隔を保つて平行する両テープ折曲部2、2の端部に亘つてブロック体15を包着し、ブロック体15にはひれ片16及び空間部17を設け、ひれ片16aを空間部17内に収まるように突設して、フアスナーテープ1、1及び裏当片14に付着した構造は下止部Aと同様である。

第7図乃至第9図に示す隠しスライドフアスナー及びその下止部A、上止部Bとなる止部は、第1図と第2図に示す例と殆ど同様であり、この場合も共通する部材と部分の符号を前述のものと同様に付して説明する。隠しスライドフアスナーの

5

6

違いは、そのテープ折曲部 2 を起立するものでなく反転折曲して設け、反転した部分にフアスナーエレメント 4 を止着したもので、図面のものはコイル状のエレメントであり、裏当片 14 は不用である。また、下止部 A を形成するブロック体 15 も第 1 図図示のものと同様に、ひれ片 16、空間部 17 及びひれ片 16 a を空間部 17 内に収めて付着したものである。上止部 B は第 9 図に示しているが、左右の各フアスナーストリンガー 7、7 ごとに取付けられるものである。フアスナーエレメント 4 は相手のものと交互に噛合するため、図中右側にはフアスナーエレメント 4 を一個分余分に設けてあり、図中左側では一個分少ないため、このフアスナーストリンガー 7 に設けた上止部 B が先行してスライダ 8 に当接する。従つて、この上止部 B を形成するブロック体 15 を前述のものと同様に構成し、他の上止部 B' は従来と同様のものが取付けてある。しかし双方共に前述の構造をもつブロック体を取付けても良い。

以上の隠しスライドフアスナーに採用した場合にも、第 8 図図示の如くスライダ 8 が下止部 A に当接した際、ブロック体 15 の空間部 17 より上部のスライダ当接面 15 a に突き当たり、空間部 17 内に収めてあるひれ片 16 a に当たらないものである。

〔考案の効果〕

この考案によるスライドフアスナーの止部によれば、フアスナーエレメントを備えるテープ折曲部にフアスナーエレメントを含んでブロック体を包着し、該ブロック体の下面周囲にひれ片を突設し、そのブロック体をひれ片と共にフアスナーテープに付着してあると共に、ブロック体のスライダ当接面側に突出するひれ片が、ブロック体に

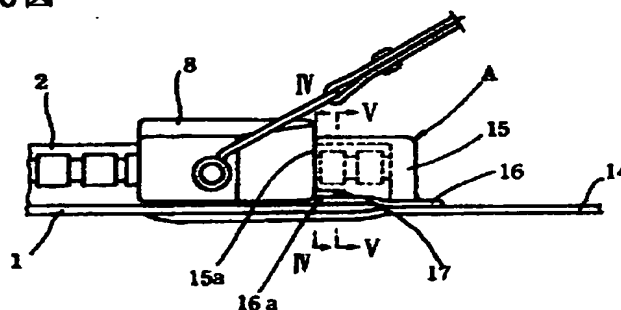
切り欠いて設けた空間部内に収まるように設けたもので、ブロック体にスライダが突き当たった際、スライダがブロック体の空間部より上部の面に当たり、ひれ片に当接しないものであるから、スライダをブロック体に強く突き当てても、ひれ片に直接影響されず、ひれ片に対しての衝撃力が緩和され、長期間の使用に対しても剥離することのない良好な製品として提供できるものである。更に、スライダと対向するひれ片が空間部内に収めて設けてあることから、スライダの摺動に対して何んらの影響も与えられず、円滑に摺動してブロック体にスライダを当接することが出来るものである。

図面の簡単な説明

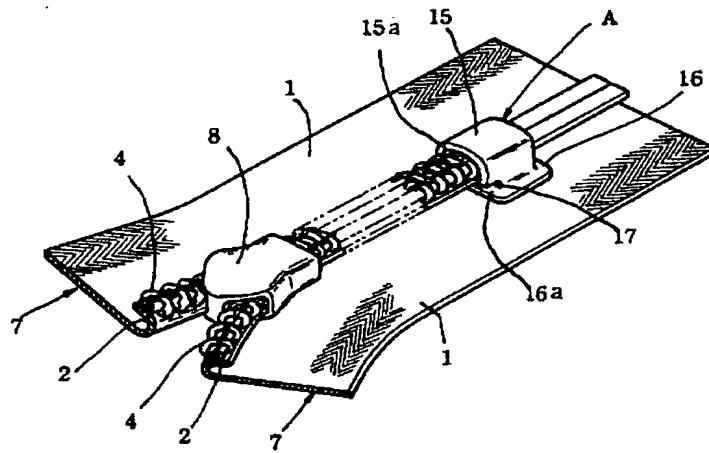
図面はこの考案によるスライドフアスナーの止部を示し、第 1 図は気密防水型スライドフアスナーの下止部を示す斜視図、第 2 図は気密防水型スライドフアスナーの上止部を示す斜視図、第 3 図は下止部にスライダが当接した状態を示す側面図、第 4 図は第 3 図 IV-IV 線矢視の断面図、第 5 図は第 3 図 V-V 線矢視の断面図、第 6 図は下止部の類例を示す斜視図、第 7 図は隠しスライドフアスナーの下止部を示す斜視図、第 8 図は下止部にスライダが当接した状態を示す側面図、第 9 図は隠しスライドフアスナーの上止部を示す斜視図である。

A……下止部、B……上止部、1……フアスナーテープ、2……テープ折曲部、4……フアスナーエレメント、7……フアスナーストリンガー、8……スライダ、15……ブロック体、15 a……スライダ当接面、16、16 a……ひれ片、17……空間部。

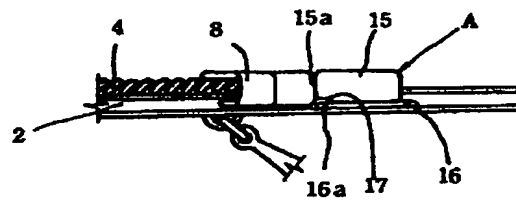
第 3 図



第7図



第8図



第9図

